2017年11月

LMAG-Nagoya ニュースレター (No.1)

(1)LMAG-Nagoya発足と設立総会の報告

2017年10月7日 にLMAG-Nagoya 設立総会を開催いたしました。設立経緯ならびに式次第は以下のようです。

IEEE-Nagoya section (名古屋支部)のLM 会員数が約60名になり、LMAG-Nagoya として活動可能となってまいりましたので、東京、関西に続き、本年、LMメンバーのご協力の下、IEEE名 古屋支部の支援を受け、石橋支部長より設立申請をしていただき、本年7月12日にIEEE本部より認められたところです。

申請時の規定に則り、Chair に稲垣康善先生(元名古屋大学、元豊橋技術科学大学)、 が就任され、Chair の指名により、Vice-Chair に市川雅也(元三菱重工業株式会社)、Secretary に水野彰(元豊橋技術科学大学、元分子科学研究所)が指名され、LMAG-Nagoya の活動準備 を進めてまいりました。(役員選挙は毎年行います)

活動内容は上記 LMAG

Tokyo(ウェブご参照ください)に準じますが、IEEE 名古屋支部のサポートを受け、見学会、セミナーなどを若手メンバー(YP)、学生部会(SB)や女性技術者グループ(WIE)などと共同で、名古屋支部の活動の一つとして行います。

設立総会は下記のように開催されました。

日時;2017年10月7日 午前10時より 場所:中京大学 1号館7階172会議室

 $\overline{}$ 466-8666 愛知県名古屋市昭和区八事本町 101-2 式次第

- 1. ご挨拶 稲垣 LMAG-Nagoya Chair
- 2. ご来賓挨拶 (順不同)

石橋 IEEE Nagoya section Chair

青山 LMAG-Cordinator

三木 LMAG

Tokyo Chair

中村 LMAG-Kansai Vice Chair

- 3. 総会 役員・活動方針の承認
- 4. 特別講演:

日時:10月7日10時40分から11時40分まで

場所;中京大学 設立総会と同じ講義室

講演者:岩田 彰 (名古屋工業大学名誉教授)

講演題目;指向性アンテナ付きBLEビーコンによる見守りシステム





(2) 依佐美送信所(愛知県刈谷市) 見学会•講演会 2017.10.06 市川雅也 LMAG-Nagoya Vice Chair 東京支部 LMAG よりお誘い頂いた上記のイベントに参加いたしました。

「依佐美送信所は昭和4年に建設された、当時としては世界最大級の通信施設で、長波によるヨーロッパへの送信を日本で初めて行いました。」(依佐美送信所記念館パンフレットより抜粋)

送信所自体現在は、耐震の問題も有り平成18年取り壊されましたが、2基あった送信機の1基を展示した依佐美送信所記念館が翌年開館し、フローラルガーデンよさみ内に残っています。2008年にはIEEEのマイルストーンにも登録されています。

あいにくの天気ではありましたが、東京セクション、同 LMAG、東京カウンシル、Region10、そして名古屋セクションのメンバー等多くの参加者が集まりました。また、私は会社勤め時代の知人にも期せず逢うことが出来、賑やかな半日でした。

依佐美送信所は、大正末から昭和にかけて日本が外交・通商上諸外国との独自通信網のニーズが増大し、それに応えるため、特に欧州向けの送信所として作られたのでした。第二次大戦では日本軍の潜水艦向けニイタカヤマノボレの通信に使用され、戦後は米海軍に接収される等の歴史も有ったことも、技術的には世に誇れるもので有ったことを示していると思いました。

私は、偶々今年の4月25日にもここを訪れたことがありましたが、その時はこのような施設が身近にあったことも知らなかったので、びっくりはしましたたが詳しいことまでは解らずに帰りました。

今回は、まずマイルストーン認定の取得にも尽力された荒井英輔氏(名工大名誉教授,当時電子情報通信学会東海支部長)の講演を聞き、設立から現在に至るまでの歴史、送信機分解調査の様子、IEEE 認定に至る経緯、等について勉強した上で、更に記念館内ではボランティアの方々総出で詳しく説明を頂き、新たな驚きが色々とありました。中でも、施設の建設を請け負った日本無線電信株式会社の社史が発見され現物を見せて頂いたことや、ニイタカヤマノボレの通信命令文書の写しも見つかった等、今でも調査が続けられていることには驚きま

